

生徒・保護者向け 図書館だより

Breeze ~図書館からの風~

令和7年7月1日

Vol. 4

文責 大田二中図書館司書

本格的な夏到来!!そしてもうすぐ、夏休み。勉強・部活・遊びに忙しく、もっとやりたいことがあったのに、あっという間に終わってしまった…ではなく、充実した日々にするために最初に計画を立てましょう。隙間時間には是非読書の時間をつくってください。有意義な時間の使い方をしましょう。

夏休み 長期貸し出し

貸出開始 7月1日(火)

返却期日 9月8日(月)

貸出冊数 5冊

シリーズ本などまとめて借りたい場合は相談してください



夏休み中 開館について

開館 7月22日(火) ~ 7月31日(木)

本の貸出や返却ができます

学習には利用できません

開館期間中は蔵書点検を行っています

※蔵書点検とは図書館にある本が紛失・不明な状態になっていないか調べる作業です。



図書委員会

クラス対抗・多読表彰に取り組んでいます

図書委員会では、「本をたくさん読んで語彙や知識を増やしてほしい」という考えから6月から11月末までの一人当たりの貸出冊数の多さをクラスで競う「多読表彰」を行います。現在の1位は1-2です。まだ開始したばかりですので、差はほとんどありません。

みんなで取り組みましょう!



いろいろな生き方

働き方・生き方について書かれた本を読もう

山をつくる

東京チェーンソーズの挑戦

菅聖子 著 小峰書店



「林業は未来の森をつくっていく、とても気長な仕事なんですよ」

東京都で林業？東京チェーンソーズは「木こりの会社」として山や環境を守るため、手をかけて森を育て、人々に木を届けている。林業はきつくて危険、高齢化の進む仕事だが、補助金に頼らない産業として成り立つ成功モデルとなるよう挑戦を続けている。

さばの缶づめ、宇宙へいく

鯖街道を宇宙につなげた高校生たち

小坂康之 著 イースト・プレス



生徒の表情は、世界唯一の宇宙食さば缶を自分の手でつくる誇りに輝いていた。

14 年間 300 人以上の高校生が関わり完成させた宇宙食、さばの缶づめ。廃校の危機、予算不足、開発難航...さまざまな困難のなかでも知識や実績を共有し、長い時間をかけて夢を果たした。宇宙飛行士野口氏が「美味しい！」と絶賛した缶づめ開発の過程。

武器ではなく命の水をおくりたい

中村哲医師の生き方

宮田律 著 平凡社



アフガニスタンの人びとが自ら食べ物やお金を得るような支援こそがその生活を長く支えることになるのです。

人々に医療や衛生、さらに食料確保の水を与えることで命を救おうと活動した中村医師はアフガニスタンで殺害された。35 年間人道支援にあたった中村医師の人生と考え方を知り、平和のありかたについて考えよう。

だれよりも速く走る 義足の研究

遠藤謙 著 偕成社



世のなかには身体障害者はいない。技術の方に障害があるだけだ。

義足エンジニアである遠藤さんが技術者になったきっかけや義足の作製の技術について書かれている。障害はテクノロジーを埋め込む「余白」であり、研究によって健常者が障害者を超える未来は近いのかもしれない。

校長先生に購入していただいた本(毎月一冊・司書のセレクト本を寄贈していただいています)



「コード」のぼくが見る世界 五十嵐大 著 紀伊国屋書店

コードとはろう者、難聴者の親の元で育った「聞こえる子どもたち」。著者はコードであり、母と手話で会話し、時にヤングケアラーと評されたときもあった。コード特有の問題や自身の葛藤について書かれたエッセイ。